

## 2 「いじめ」をなくすために

### ワーク 1

次のような行動をとったことがあるか、チェックしてみましょう。

1. 友だちがからかわれているのを見て、おもしろがって笑ったことがある。  
( はい・いいえ )
2. 友だちが誰かをからかっているのを見て、からかいに加わったことがある。  
( はい・いいえ )
3. インターネット上での悪口の書き込みに便乗して、自分も書きこんだことがある。  
( はい・いいえ )
4. 誰かを仲間はずれや無視するよう誘われ、いじめる側に加わったことがある。  
( はい・いいえ )
5. SNS 等を通じて、誰かをみんなで無視をしたことがある。( はい・いいえ )

### ワーク 2

資料を読み、自分の考えを書きましょう。

1. (暴言を吐かれた) 私  
→ 私がつらかったのはどのようなことでしょうか。
2. (男の子の暴言に対して笑った) クラスの友だち  
→ どのような気持ちで笑ったと思いますか。また、笑ったことについてあなたは  
どう思いますか。
3. 同級生の女の子  
→ どのような気持ちで行動したと思いますか。

## ワーク 3

もし、自分が資料の場面にいたら、どのような行動をしていたと思いますか。自分の考えに近いものに○をつけてみましょう。

- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 1. 「同級生の女の子」のように、「私」をかばう行動をとる。 | (      ) |
| 2. 見ているだけで自分では何も行動しない。         | (      ) |
| 3. おもしろがって一緒に笑ってしまう。           | (      ) |
| 4. 自分も一緒になってからかいに加わってしまう。      | (      ) |
| 5. その他<br>(具体的に：               | (      ) |

## ワーク 4

「いじめをただ見ている人」や「いじめに加担している人（いじめる側に加わっている人）」は、どのような気持ちでそのような態度をとっていると思いますか。グループで話し合みましょう。

「いじめをただ見ている人」

「いじめに加担している人」

## ワーク 5

自分が友だちをいじているつもりがなくても、結果的には、自分の行動がいじめに加担し、いじめをエスカレートさせている可能性があります。次の点について考えてみましょう。

- (1) 「いじめをただ見ている人」あるいは「いじめに加担している人」にならないために、どのようなことを心がけていくべきか、自分の考えを書きましょう。

(2) クラスや部活動などの自分の所属する集団の中で、いじめを許さない雰囲気をつくるために、なにが必要か考えて書きましょう。

## ワーク 6

ワーク5で記入したことをグループで意見交換し、その結果をまとめましょう。また、グループでまとめた内容を発表しましょう。

## いじめを見ている君へ できる方法で助けてあげて

スポーツジャーナリスト 増田明美

いじめられている人をみたら、勇気を持って助けてあげてください。いじめられている人が一番悲しいのは、自分を助けずに、ただ見ている人の眼です。その眼は、いじめられている人の心の中いっばいに広がり、深い悲しみの川の中へ沈めてしまうのです。

私は小4のころ、背が低くてぽっちゃりしていました。ある日、先生から作文をほめられ、気をよくしていると、突然クラスの男の子から「ちびデブ」という大きな声。心につきささり、はずかしくて泣いてしまいました。しんと静まり返った教室に、小さな笑い声が起こり、心が凍りつきました。それは、ののしる声以上につらかった。

その時、同級生の女の子が「おおデブ!」とクラス中に響き渡る声とともに、その男の子をにらみました。特に親友というわけでもない女の子のひと言はすごくうれしかった。心の中にやわらかな日がさしたような気持ちになりました。

その男の子はそれから、その子のことも、ののしるようになりました。でも彼女はぜんぜん気にしない。そんな彼女を見て私は強くなれたような気がします。あのひと言がなければ、私は悲しい静かな空気の中でおぼれていたと思います。

もしも川を流されている人に気づいたらあなたはどうしますか。助けに行くと自分もおぼれてしまう。飛び込むことができなくても、周りの人に聞こえるように大きな声で助けを求めたり、「大丈夫」と声をかけながら川岸を走ったりすることはできるはずです。

いじめられている人をみたら、もしも自分だったら、と想像してみてください。そして自分ができる方法で助けてあげてください。

## 解説2 「いじめ」をなくすために

### 1 ねらい

自分がいじめに関与してないつもりでも、いじめを傍観したり、いじめに加担するような行動が、いじめをエスカレートさせたり、いじめられている友だちを深く傷つけることにつながることを理解させる。

集団の中でいじめが起こった時に、いじめられる人にとっては、傍観している人も、加害者と同じであると思えることを認識させるとともに、いじめを傍観している人たちがいじめを許さない立場に立つことの重要性を理解させ、適切な行動をとることができるようにする。

### 2 進め方

展開例（50分 3～4人のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1 (2分) ① 自分がいじめに加担するような行動をとったことがないか振り返る。	○ 各項目を具体的にチェックすることにより、いじめが行われている状況に対して、自分が加担したことがあるかを確認できるようにする。 ○ これらの項目に「はい」と答えた人は、いじめの加害者になっていることを伝え、自分がいじめをしたつもりはなくても、知らず知らずのうちに、加害者になることに気付かせる。
2 ワーク2 (12分) ① 資料を読み、いじめられる立場、いじめに加担している立場、いじめを許さない立場、それぞれの気持ちについて考える。 ② 記入した結果について、グループ内で意見交換する。	○ いじめに関して周囲の人が、無関心であったり、同調したりする雰囲気がある場合、被害者の傷はさらに深まること、また、いじめに立ち向かってくれる人がいることで救われることを伝える。
3 ワーク3 (6分) ① ワーク3では、自分が資料の場面にいた場合、自分ならどの立場になると思うかについて考える。	○ 自分自身について振り返りながら、自分ならどのような行動をとるか考えさせる。 ○ クラスでたった一人「私」をかばった友人の態度を取り上げるものであって、「おおデブ」という言葉を正当化するものではないことを伝える。

#### 4 ワーク4 (10分)

- ① ワーク3の意見をふまえて、「いじめの傍観者」「いじめに加担する者」の気持ちについてグループでまとめる。
- ② まとめた内容をグループごとに発表する。

#### 5 ワーク5 (10分)

- ① いじめに加担しないためにはどのようにしたらよいかを考える。  
(1)
- ② 集団全体が、いじめを生み出さない雰囲気をつくっていくためにはどのようにしたらよいかについて、自分の考えを記入する。  
(2)

#### 6 ワーク6 (10分)

- ① ワーク5で記入した内容についてグループで意見交換し、考えをまとめる。
- ② まとめた内容をグループごとに発表する。

- 「いじめの傍観者」「いじめに加担する者」は、なぜそのような行動をとってしまうのかについて、具体的に話し合うように促す。
- 全体で意見を共有させた後、どのような理由であっても、いじめにおいて、「傍観者」「加担する者」の立場に立つことは、被害者にとっては加害者ではないかと投げかける。
- 自分はいじめをしているつもりはなくても、自分のとる行動によっては、いじめをエスカレートさせる結果になることを伝える。
- 普段からどのようなことを心がけておけばよいか、具体的な行動を考えるように伝える。
- グループから出された意見をふまえて、いじめを起こさない・エスカレートさせないために必要なことを理解させ、いじめは絶対に許してはいけないという態度を培う。
- いじめる立場の人間だけでなく、いじめを傍観したり加担したりする立場であっても許されないことを伝え、一人ひとりがそのような認識に立って行動することによって、集団の中にいじめを許さない環境を作ることができることを強調する。

### 3 解説

文部科学省の「学校におけるいじめ問題に関する基本的認識と取組のポイント」(以下、取組のポイント)において、「いじめ問題に関する基本的認識」の一つとして次の点を挙げている。

**「弱いものをいじめることは人間として絶対に許されない」との強い認識を持つこと。**  
どのような社会にあっても、いじめは許されない、いじめる側が悪いという明快な

一事を毅然とした態度で行きわたらせる必要がある。いじめは子どもの成長にとって必要な場合もあるという考えは認められない。また、いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許されない。

つまり、いじめは、いじめる立場の人間だけでなく、いじめに加担したり傍観したりする立場であっても許されないこととして認識させるべきである。また、その上で、一人ひとりがそのような認識をもち行動することによって、集団の中にいじめを許さない環境を作ることができることを理解させたい。

そこで、このワークでは、主に「いじめを見ている立場」、「いじめに加担する立場」に焦点をあて、集団において、一人ひとりがいじめに対してどうするべきかについて考えさせていきたい。

ワーク1の5項目のうち1～4については、「平成26年度『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』について」の「いじめの態様」で上位に挙がっている項目をもとに作成した。また、スマートフォンの普及に伴い、SNSを通してのいじめ、仲間外れなどの行動が増えていることから、5の質問を加えた。このワークでは、生徒が自分の行動の振り返りをしたところで、自分がいじめを始めていなくても、知らず知らずのうちに、加害者になっている可能性があることを認識させたい。

資料は、クラスで、ある男の子に暴言を吐かれた「私」が、周りの友だちに笑われたことでさらに傷ついた話である。このワークを通して、いじめに関して周囲の人が、無関心であったり、同調したりする雰囲気がある場合、被害者の傷はさらに深まること、いじめに立ち向かってくれる人がいることで救われることに気付かせたい。

ワーク3は、ワーク5につながる質問である。

ワーク4は「いじめの傍観者」、「いじめに加担する者」に焦点を絞って、なぜそのような行動をとってしまうのかについて、グループで具体的に話し合いをさせたい。ここでは、生徒が次のようなことを記入することが予想される。

### 「いじめをただ見ている人」

- ・そのいじめに関わりたくないから
- ・かばったりしたら今度は自分もいじめられそうだから
- ・仲の良い友だちでなかったらかばわないから
- ・起きているいじめそのものに関心がないから
- ・いけないと思ってもどう行動してよいかわからないから 等

### 「いじめに加担している人」

- ・おもしろそうだったら、いじめに加わってしまうかもしれないから
- ・一緒にやらないと、自分がいじめられてしまうかもしれないから
- ・ただふざけ合っているだけだったら別にいいと思うから 等

意見交換がある程度進んだところで、全体で意見を共有し、その上で、どのような理由であっても、いじめにおいて、「傍観者」、「加担する者」の立場に立つことは、被害者にとっては加害者と同等であるということを生徒に十分に認識させる。

ワーク5・6では、いじめを起こさない・エスカレートさせないために、次の点について確認し、いじめを絶対に許してはいけないという態度を培うことが大切である。

- ・一人ひとりが他者の存在を大切にすることが重要であること
- ・自分が軽い気持ちで「ふざけている」「からかっている」つもりでも、相手の心を深く傷つけている可能性があることを十分に心に留め、常に自分の言動が他者を傷つけていないか意識することが大切であること
- ・自分がいじめを見ている立場の時に、「自分には関係ない」と無関心であることも問題であり、やめさせるよう全員が行動できることが重要であること
- ・いじめを始めた人に加担することは、いじめを深刻化させることにつながるという認識に立って、絶対にそのような行動をとってはならないこと
- ・相手に対して、悪意なくからかったりふざけ合ったりしていたつもりでも、相手が傷ついていた場合には、自分が相手の気持ちを理解していなかったことを反省し、誠意をもって謝罪すべきであること

国立教育政策研究所の「生徒指導リーフ いじめの理解 Leaf. 7」には、いじめについて「特定の“いじめっ子”や“いじめられっ子”だけの問題ではなく、どの児童生徒も被害者にはもちろん、加害者になり得るという『事実』を正しく理解することが大切」であることが述べられている。

いじめにおいては、「いじめる立場」「いじめられる立場」に焦点があたりがちであるが、実際には「いじめを見ている立場」の生徒たちがどう行動するかということが、「いじめる立場」、「いじめられる立場」の生徒、そしていじめそのものに大きな影響を与える。

また、文部科学省の「取組のポイント」における「いじめを許さない学級経営等」の中では、次のように記述されている。

児童生徒の成長にとって必要な場合もあるといった考えは認められないものであり、個々の教師がいじめの問題の重大性を正しく認識し、危機意識を持って取り組まなければならないこと。

また、教師の何気ない言動が児童生徒に大きな影響力を持つことに十分留意し、いやしくも、教職員自身が児童生徒を傷つけたり、他の児童生徒によるいじめを助長したりすることがないように留意すること。

このワークシートを授業で活用するにあたっては、授業者がクラスの状況を十分に把握し、かつ、授業者自身がいじめの根本的な問題をしっかりと理解した上で指導する必要がある。また、授業の中で、生徒の不適切な発言があった場合には、その都度指導するとともに、指導する側も不用意な発言のないよう十分留意することが重要である。

## 〈引用文献〉

「完全版 いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ」著者 増田明美 朝日新聞社（平成24年9月）  
「生徒指導リーフ いじめの理解 Leaf. 7」文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（平成24年9月）  
「学校におけるいじめ問題に関する基本的認識と取組のポイント」文部科学省ウェブサイト